自民沼津

ジオサイトの活用は

問　本市には大瀬崎や御浜岬など数々のジオサイトがあり、これらの重要な観光資源を国内外に発信するため、情報提供だけでなく関連イベントなどを積極的に仕掛けていく必要があると考えるが、今後の施策展開は。

答　県の主導で伊豆半島全体の観光振興に取り組むこととなった伊豆半島ジオパーク構想は、大地が育んだ重要な資産を多数備えた地域が、それらの保全と活用によって、経済、文化活動を高めることで地域振興につなげていくものである。そのジオパーク構想内にある本市のジオサイトの活用については、現在、ジオガイドの養成や意識啓発を図るため、研修会や現地見学会の開催等を行っているが、今後はさらにジオサイトの解説板の整備等を進めるとともに、民間が実施するジオツアー等の取り組みに対する支援等を行い、地質的な見どころであるジオサイトの観光資源としてのより一層の活用を図っていきたいと考えている。

▲観光資源としてより一層の活用が期待されるジオサイト（御浜岬）

未来の風

鉄道高架事業を凍結する考えは

問　鉄道高架事業を凍結し、他事業に政策転換する考えは。

答　鉄道高架を含む沼津駅周辺総合整備事業を推進することで、道路整備による歩行者や自転車が安心して回遊できる空間の確保や南北自動車交通の円滑化などが図られることを初め、東部コンベンションセンターの建設など高次都市機能の集積も進み、また、土地区画整理事業により住環境が整備されることなどから人が集まり、にぎわいに満ちたまちづくりが実現できると考えている。鉄道高架事業は既に着手している土地区画整理事業、駅北拠点開発事業、関連道路整備事業と一体であることから、効果を最大限発揮するためにも鉄道高架事業だけをやめるというわけにはいかないと考えている。

志政会

鉄道高架事業推進への決意は

問　施政方針において、引き続き鉄道高架事業推進の姿勢を示しているが、本事業の早期完成を待ち望んでいる多くの市民に対する決意表明は。

答　本市は、これまで沼津駅周辺総合整備事業の中核をなす鉄道高架事業を、市の重要施策の一つと位置づけ推進してきた。本事業については、事業主体である県が設置した有識者会議にて計画の妥当性が結論づけられたほか、平成二十三年に実施した県の事業再評価においても、事業の有効性・必要性が認められている。こうした中、現在、沼津駅周辺では、鉄道の高架化を前提としたまちづくりが着々と進んでおり、市としては、鉄道高架事業の一日も早い完成に向けて県と協力し、全力を尽くしていきたいと考えている。

市民クラブ

市長の市政継続の意思は

問　市長に就任後、三年間を振り返っての市政運営に対する自己評価と二期目に向けた考えは。

答　市政を預かってから、事業仕分けによる行政改革や子供の医療費補助拡大を行った。また、市民を巻き込んでのエコ活動も広がりを着実に見せているなど手ごたえを感じている施策も多くある。政治姿勢は就任以来、たとえ意見は違っても、沼津のためにできる限り話し合いの機会を持つ姿勢は貫いてきた。今後も、沼津はすばらしいところだと自信を持ってもらえるような市政運営を市民と協働で推進していきたいと考えている。批判もあるが愛のむちととらえ、二期目を目指して市民の審判を仰ぎたいと考えている。